様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月２５日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2011
課題番号：20330071
研究課題名（和文）　労務管理の生成と終焉に関する総合的歴史研究：「職業世界」との相互関係を中心に
研究課題名（英文）　Comprehensive historical study on the genesis and a termination of labour management; focusing on relations between the realm of occupations and labour management
研究代表者　　小野塚　知二（ONOZUKA, Tomoji）
東京大学･大学院経済学研究科･教授
研究者番号：40194609

研究分野：西洋経済史
科研費の分科・細目：経済学・経済史
キーワード：経営史、労務管理、職業世界、徒弟制度、雇用慣行、管理問題の発見

１．研究計画の概要

労務管理が生成し成立してきた条件を明らかにすることを主たる目的として、研究組織の編成と、年度別の研究計画を以下のとおり策定した。

Ａ　研究組織は、7 つの個別事例の分担を決めるとともに、「職業世界」の諸要素をその機能に注目して一般化する予備作業と、「職業世界」と労務管理の相互関係を規定する中心的な要素を検出する作業については、4 つの作業グループを編成して、研究遂行の分担と責任を明確にした。

Ｂ　年度別計画は、まず平成 20 年度に、(1)労務管理に関係する諸要素の洗い出しを先行させ、(2)諸要素の一覧表および相関図を仮に描出し、また(3)関連する研究者との交流および研究の妥当性のチェックを受けることとした。

平成 21 年度は、(4)各事例に即して「職業世界」を再構成することに力点をおくとともに、(5)研究成果の中間的な発表にも注力することとした。平成 22～23 年度は、残された計画項目((6)「職業世界」と労務管理の相互関係の叙述、(7)女性･少年および移民に関する準備作業、(8)諸要素の一般化と比較労務管理史の基準設定に取り掛かるとともに、研究成果の公開と交流、外部からの評価･助言をさらに進めることとした。

平成 23 年度はこのほかに、(9)「生活世界」再構成のために必要な要素の仮設にも予備的に取り組むが、本格的には本研究の次のプロジェクトに委ねることが予定されている。

２．研究の進捗状況

(1)「職業世界」の特徴的な 7 事例を再構成して、それと労務管理との相互関係を事例内在的に叙述した。
(2)各事例で再構成された労務管理現象に共通に作用する諸要素を抽出し、そこから比較労務管理史の基準を仮設した。
(3)その他、1.に記載した計画の諸点について公開可能な成果を獲得した。
(4)上記(1)―(3)の成果についてはすでに、2009 年社会政策学会パネル、2010 年経営史学会パネル、および 2010 年の国際シンポジウム等で発表するとともに、学術雑誌に随時掲載されている。
(5)それらの成果をもとに内外の関連研究者の助言と評価も得て、研究の取り纏めの方法を検討する段階に到達している。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

当初の研究計画が綿密かつ妥当なものであったことに加え、研究代表者、研究分担者および連携研究者のいずれにも大きな故障なく研究を遂行できたため、計画事項のほとんどについて、予定通りの成果をあげている。比較基準の仮説については、内外の研究者の協力も得て、当初の計画以上の成果をあげている。唯一、計画通りに達成できなかったのは、平成 22 年度に予定されていたイギリスでの史料調査で、先方の人員不足と異動のため、予定していた 22 年度中に実施できなかったが、23 年度中に実施して、この点に関しても完了する目途が立っている。

４．今後の研究の推進方策

計画項目の(7)女性･少年および移民に関す

る準備作業と(9)「生活世界」再構成の要点の仮設は密接に関係するので、既に仮設されているいくつかの論点、ことに職業世界への包摂・統合の条件に関して、明らかにされた事実も踏まえて、検討を進める。なお、ここでも前年度までの主たる論点であった、経営者によって認識されていない要素がいかなる作用を示すかに注目する。

計画項目(8)諸要素の一般化と比較労務管理史の基準設定については、これまでに解明された諸事例に適用できる基準を設定し、併せて諸要素を労務管理上の機能・逆機能の面から整序する。

最後に本研究全体の成果の取り纏めとしては、①平成 22 年度後半に実施された、熟練労働者の再定義と労務管理問題の生成に関する国際シンポジウムの成果を翻訳して学術雑誌に公開する。②この研究の公開可能な成果と、今後さらに研究すべき残された課題とを仕分ける作業を 23 年度後半に合宿研究会等で行い、③公開可能な成果については、本プロジェクト終了後の書籍刊行の計画を具体化する。この過程では、関連書分野の内外の研究者から助言と評価を得ることを予定している。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）
小野塚知二「19 世紀後半イギリス機械産業における職長の組織化と自己認識　―労使関係的側面に注目して―　」東京大学『経済学論集』74-３、2008 年、2-30 頁.
榎一江「女性労働者と企業――郡是製糸の『教育』を中心に」『歴史と経済』203、2009 年、24-33 頁.
WOO, Jongwon and SEKIGUCHI, Teiichi, “The Third Path to Industrial Democracy? The Experience of Employee Representation Plans in the US,” *Congress Proceedings, 15th World Congress of the International Industrial Relations Association*, 2009.
小野塚知二「イギリス造船機械産業における管理革新の担い手　―職長・製図工・技師の機能と位置についての試論―　」『大原社会問題研究所雑誌』619、2010 年、3-17 頁.
清水克洋「伝統的、経験主義的徒弟制から体系的、方法的職業教育へ――1925 年フランス労働局「労働週間報告」の検討を中心に――」『大原社会問題研究所雑誌』619、2010.
禹宗杬「福祉社会の変貌と労働組合」『社会政策』2-1、2010 年、5～16 頁.
〔学会発表〕（計５件）
ICHIHARA,Hiroshi, “The Japanese Human Resource Management Before World War Ⅱ:A Case of the Engineers,” Asia-Pacific Economic and Business History Conference, 2009.
小野塚知二・関口定一ほか「世紀転換期英米企業の組織・管理改革とその人的基盤　－熟練工、職長、技術者のキャリアに注目して－　」、社会政策学会第 118 回大会、2009 年.
KINOSHITA, Jun, “The Origin of the Fitchburg Plan: The Machinist Strike of 1907,” New England Historical Association, Spring Conference, 2009.
谷口明丈・市原博・関口定一・小野塚知二・田中洋子・松田紀子「現場主義の国際比較　―エンジニアの形成史―　」、経営史学会パネル、2010 年.
ONOZUKA, Tomoji, ICHIHARA, Hiroshi, OLIVER, Bobbie, OMNES, Catherine, WOO, Jongwon, and ENOKI, Kazue, International Colloquium "Apprenticeship transformed and skilled workers redefined in the twentieth century; qualification, ablity, and science," the Workshop for Comparative History of Labour Management, 2010.
〔図書〕（計５件）
伊藤健市・関口定一『ニューディール労働政策と従業員代表制――現代アメリカ労使関係の歴史的前提』ミネルヴァ書房、2008 年.
禹宗杬『公共部門における要員管理の韓日比較（韓国語）』ソウル：韓国労働研究院、2009.
小野塚知二編著『自由と公共性　―介入的自由主義とその思想的起点―　』日本経済評論社、2009 年.
木下順『非「教育」の論理――「働くための学習」の課題――』明石書店、2009 年.
市原博・榎一江『近代日本のエネルギーと企業活動――北部九州地域を中心として――』日本経済評論社、2010 年.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕